

院内のウイルス性肝炎の早期発見における院内連携の重要性について

研究分担者 小林 良正 浜松医科大学医学部附属病院 肝臓内科

研究協力者 笹田 雄三 磐田市立総合病院 肝臓内科

A. 研究目的

感染を知らないまま潜在している、もしくは、適切な治療を受けていない肝炎ウイルス感染者が未だに多く存在している。当院ではそのような症例を拾い上げるため、2018年7月よりHBs抗原およびHCV抗体陽性者に関して、電子カルテ上で消化器内科または肝臓内科への受診を促すシステムを構築し運用している。

B. 研究方法

HBs抗原またはHCV抗体陽性者を検査部で拾い上げ、主治医宛てに消化器内科または肝臓内科への受診を促す院内メールを送る。また、肝臓専門医及び肝炎コーディネーターがそれらの経過をチェックし、未受診の場合は、適宜、主治医に連絡する。

C. 研究結果

2018年7～12月HBs抗原の総検査数は6974名で陽性者は84名（1.2%）、HCV抗体の総検査数は5378名で陽性者は107名（2.0%）であった。院内メールを送る対象とした消化器内科及び肝臓内科以外の科で検討を行った。陽性者は、救急、整形外科、呼吸器内科、消化器外科、形成外科、産婦人科の順に多かった。HBs抗原陽性者は、27名（男性17名女性10名）、年齢中央値66歳、ALT中央値16.5IU/L、血小板中央値22.4万/ μ l、HCV抗体陽性者は78名（男性50名、女性28名）、年齢中央値79.5歳、ALT中央値22.0IU/L、血小板中央値18.2万/ μ lであった。HBs抗原陽性者では、「消化器内科に紹介」が7名25.9%、「未受診」が6名22.2%であった。HCV抗体陽性者では、「消化器内科に紹介」が5名6.5%、「未受診」が11名14.3%、「HCV-RNA陰性」が22名28.6%であった。

D. 研究結果

電子カルテを用いた受診推奨システムを確立して短期間ではあるが、非専門科に潜在する肝炎ウイルス感染者の拾い上げに一定の成果を上げていると考える。非専門医からのHCV-RNA測定の件数も増加し、関心が高まっていると考えるが、まだ、未受診者がみられ、今後も非専門医への啓蒙活動が必要と考える。また、肝疾患コーディネーターを含めた他職種との連携が重要と思われる。

E. 研究発表

1. 論文発表：なし

2. 学会発表：第27回日本消化器関連学会週間デジタルポスターセッション15(2019.11.21)

院内のウイルス性肝炎の早期発見のために-院内連携の重要性-

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得：なし 2. 実用新案登録なし 3. その他：なし